

くらしの未来通信社

メンバー

ヤマ/サナ/なつみ/マツ

市役所が、まちの「学校」になる日。 — 学生、職人、農家、市民すべてが先生になる共創の庁舎

多様な市民が対話を重ねる中で、新たな鎌倉市役所の姿が見えてきた。学び、アート、食、ものづくりが響き合う空間は、市民の暮らしを育む舞台になる。その未来像は、AIと人の共創によって描かれ始めている。

◆生成AIが描いた庁舎の未来
市民の声をもとに、生成AIを活用して庁舎の空間案を創出。アイデアには画像生成も取り入れられた。2025年5月24日には多様な参加者が集い、対話と共創のワークを実施。市民が描く未来像が、一歩ずつ形になりつつある。

◆「つくる」市役所の正体とは
学生ラウンジ、アート展示、素材工房、地産食材のハブ——。堅いイメージをくつがえす提案が出そろった。市役所が「行政の建物」ではなく、暮らしの延長にある「つくる場」へと進化する日が、もうすぐ訪れるのかもしれない。

特集：アートと素材が響き合う市庁舎



※この画像は生成AIで作成したものです。

社説 (参加者の感想)

多様な声が、自然と重なり合っていく。その奇跡のような時間が、今日の市民ワークには確かにあった。理想は個の中に宿り、交わることで、まちの未来となる。市役所がその触媒になる日も遠くない。

市役所に用事のある母に連れられて来た小学4年生の咲良（さくら）は、ロビー奥の小さな工房に吸い寄せられた。そこでは地元の職人が、和紙の繊維のやわらかさを教えていた。「触つてごらん」。差し出されたのは、咲良が家でよく使うコピー用紙とはまるで違う感触の紙。職人は、その紙がどうやってできるか、どんな想いで漉かれているかを、静かに語った。隣の壁には、同じ素材で作られた繊細なアート作品が展示されている。咲良は言葉も忘れて見入った。「なんか、紙がしゃべってるみたい！」市庁舎の一角が、静かに誰かの感性を育てていた。

市民からの声

◆学生に開かれた学びの拠点

放課後の学生が安心して滞在できるラウンジを設け、学習支援やカフェ機能も併設する案が提案された。

◆市役所にアートと偶然の出会いを
来庁者が自然に目にする導線上に、選定された現代アートを展示する「アートキューブ」設置の提案が上がった。

◆素材に触れる公開工房の併設を
鎌倉の工芸素材を常設展示する「素材ライブラリー」と、誰でも利用できるミニ工房の設置案が出された。

◆地産地消の食育拠点としての活用
地元食材を扱うマーケットや体験型カフェ、調理プログラムなどを通じて、食を中心に市民が集う空間の提案がされた。

新しい市役所、ここが私の居場所

みんなの
声
ヤクジョ × アクション

鎌倉市新庁舎

市民ワークショップ

第2回

2025.5.24.13:30-16:00

— 放課後や休日に、市役所を“つかいたおす”としたらどんなこと？

チームまちの声タイムズ

メンバー

じーまー/ユウ/
こけし/

市民からの声

◆無料の音楽練習室を

中高生が気軽に使える防音スタジオを設置し、音楽活動の支援拠点とする提案。

◆親子分離の安心空間

遊び場と保護者用スペースを仕切り、見守りながら会話や休息ができる場を整備する提案。

◆屋内アスレチック広場

雨天でも体を動かせる屋内遊具ゾーンを導入し、親子の健康的な交流を促す提案。

◆宿題できる学習ブース

小学生向けの自習スペースを設置し、宿題や勉強の習慣づけを支援する提案。

まちの未来を語る場が、いま動き出している。鎌倉市役所のあり方を見直す対話の中で、市民の声が多様な形で結晶していった。生成AIによるアイディア化、画像生成による視覚化、そして当事者の語り。それらが重なり合い、新しい市役所像が生まれようとしている。

◆声がかたちになる日

生成AIを活用し、市民の声から具体的な空間や仕組みのアイディアを創出。2025年5月24日には、多様な参加者による対話が行われ、画像生成で視覚化も進んだ。未来の市役所づくりが一步前進した日となった。

◆つい話したくなる4案

音楽練習室、親子の会話空間、屋内アスレチック、子ども自習ブース―。一見バラバラに見える4つの提案には、「安心して過ごせる居場所づくり」という共通点があった。市役所は、いつしか話したくなる場所になるのかもしれない。

特集：春の出会いと挑戦の場



※この画像は生成AIで作成したものです。

社説
(参加者の感想)

市民一人ひとりの想像が、AIの力で「居たくなる場所」へと形を得た日。声が交わり、妄想が意思となる瞬間に立ち会えた。

春、引越してきたばかりの母と5歳の息子。

知らない土地、慣れない環境の中、母は「ちゃんと笑ってくれるだろうか」と不安を抱えていた。

ある日、役所内のアスレチック広場を見つけ、ふたりは靴を脱いだ。クライミングの壁を登る息子の顔に、久しぶりの光が差す。

周囲には同じ年ごろの子どもたち、そして見守る保護者たちの笑顔。母もまた「ここでなら大丈夫かもしれない」と肩の力を抜いた。

あの日の手ざわりと歓声は、ただの遊び場ではない。「また来よう」という言葉にこめた想い。それは、居場所を見つけた家族の、最初の春の物語だった。

鎌倉市新庁舎
市民ワークショップ
第2回
2025.5.24.13:30-16:00

— 放課後や休日に、市役所を“つかいたおす”としたらどんなこと？

カマクラびより 新聞

メンバー

まどか/リンツ/サカイ/
あきこさん/きん

市民からの声

◆多国籍文化が香る市役所へ

月替わりで各国の文化や料理を紹介する「カルチャーデー」を市役所内カフェで開催し、観光客や地域住民との交流促進を提案。

◆心を整える静寂の空間

図書館の一角にスマホ禁止の「マインドフルネス・ルーム」を設け、利用者が静かにリセットできる時間と空間を提供する案が出た。

◆NEB体験が学びの場に

脱炭素型庁舎の仕組みを体験できる展示室を市役所内に設け、エコ建築の理解促進と市民活動の拠点化を提案。

◆地域で育てる学びカフェ

市役所の子育てエリアに、学生や社会人が小学生に勉強を教える「ゆるボラ学習カフェ」を設ける構想が持ち上がった。

「市役所が、まちの“縁側”になる日」

——グローバル交流から静寂空間まで。心と心をつなぐ新拠点。

かまぐら市役所が、まちにひらかれた「縁側」になることを願って。子どもから大人、地域も国境も超えて集った市民たちは、食、環境、学び、そして心の静けさについて語り合い、かつ未来像を描きました。

◆市民が描く役所の未来
2025年5月24日、鎌倉の未来を想う多様なメンバーが集い、新しい市役所のかたちについて語り合った。「誰が来ても心地いい」を軸に、文化や学び、静寂や環境への願いが重ねられた、静かな熱量に満ちた時間だった。

◆4つの願いが灯す風景
カフェで広がる多国籍料理の香り。図書館に生まれる静かなリセット空間。脱炭素の仕組みを体験できる展示室。そして子どもと大人が学び合うカフェ。どれも心にふれる風景だった。未来の市役所は、もう始まっている。

特集：サテの香り、心の扉を開く

※この画像は生成AIで作成したものです。



社説
(参加者の感想)

市民が語る声には、未来への期待と創造の歓びが満ちていた。誕生日の喜びも重なり、今日の対話が一人ひとりの記憶に刻まれた。新庁舎は、すでに心の中で立ち上がり始めている。

「この香ばしさ、故郷の屋台の味にそっくり！」——インドネシアから鎌倉に留学してきたリアさんは、市役所のカフェで開催された「世界の食文化フェア」の「インドネシア月間」に目を輝かせた。

鉄板の上でじゅうじゅう焼かれるのは、甘辛いピーナッツソースが香る「サテ」。

隣に座った地元の高校生に「どう？食べてみて」とすすめる

と、「うまつ！これ、毎週食べたい」と笑い合った。

言葉はたどたどしくても、味は心を結ぶ共通語だった。リアさん

はいつの間にか、みんなの「サテ先生」になっていた。異国で感じた小さな孤独が、串焼き一本

で溶けていく午後。

そんな温かい景色が、鎌倉の市役所で静かに育っている。

ふらり、未来と出会う市役所

◆気になる4つの風景
雨でも安心の遊び場「ミニかまくら広場」、子ども心に残る「学びランチスポート」、地域で彩る「鎌倉ギャラリ」、学生が語り合う「未来ラボ」。どれも、誰かの願いが原点。新市役所に息づく、物語のある風景に注目が集まっている。

◆未来に寄り添う対話の力
新市役所の構想に、市民の感性と生成AIの力をかけ合わせた試みが注目を集めている。
2025年5月24日、多様な視点を持つ市民が集い、アイデアを交わし合った。生成AIは文章だけでなく画像生成も担い、構想は視覚的にも具体性を増した。

市民の小さな気づきや願いが、未来の市役所を形づくる力になる。生成AIと市民の対話を通じて浮かび上がったのは、誰もがふらりと立ち寄りたくなる場所のかたち。鎌倉らしさとあたたかさ、静かに息づく新しい公共空間が描かれ始めている。

みんなの
かんがえ
マラソン × アクション

鎌倉市新庁舎
市民ワークショップ
第2回
2025.5.24.13:30-16:00

—
放課後や休日に、市役所を“つかいたおす”としたらどんなこと？

雨の日のかまこと編集室

社説

(参加者の感想)

多様な視点が交差した本日の新聞作り。生成AIと人の対話が見どころがちな雨の日の困りごとを照らし出した。気づきが、やさしさを生む。

メンバー

ちっちゃと/ミッチー/
みどり/カン

特集：雨の日、心に咲いた記憶



※この画像は生成AIで作成したものです。

雨上がりの午後。制服のまま、ふたりの小中学生が市役所に入ってきた。行き場を失った放課後、ふらりと迷い込んだのは「ミニかまくら広場」。木の香りと、笑い声。そこには雨を忘れるような静かな温もりがあった。

ふと目をやると、ホールの壁に飾られた展示に足が止まる。そこには、由比ヶ浜の夕焼け、円覚寺の緑、古民家を描いた子どもたちの絵。見慣れたはずの風景が、誰かの「好き」として残されていた。「これ、私も描いてみたい」

彼女の目が輝いたとき、静かな市役所は、新しい居場所へと変わっていた。鎌倉の暮らしを、遊びとアートがそとつないだ日だった。

市民からの声

◆未来語る学びの場「未来ラボ」

学校の垣根を越えて学生が学び合うラウンジ。将来や勉強の相談ができる交流スペースとして、多目的ホールでの活用が提案された。

◆市民目線の鎌倉ギャラリ

多目的ホールの壁面に、鎌倉の自然や暮らしを映す市民ギャラリを常設。来庁者に地域の魅力を伝える空間としての活用が期待される。

◆雨でも安心「ミニかまくら広場」

雨の日に子どもが自由に遊べる全天候型スペース。木の遊具や絵本コーナーで、親子が安心して過ごせる新たな居場所の整備が提案された。

◆お弁当もO.K.「学びランチスポート」

社会科見学で訪れる学生向けに、気軽に昼食がとれるベンチゾーンの整備を提案。衛生面や導線にも配慮した設計が求められている。

つながる庁舎、ひらく心。

みんなの
ヤクジョウ
ヤクジョウ × アクション

鎌倉市新庁舎
市民ワークショップ
第2回
2025.5.24.13:30-16:00

—
放課後や休日に、市役所
を“つかいたおす”とした
らどんなこと？

未来の鎌倉市役所には、市民の声から生まれたアイデアと物語が詰まっている。生成AIで形にした提案の数々は、2025年5月24日、多様な市民が集い共に語り合った対話の結晶である。

◆生成AIが拓く庁舎未来図

新市役所の構想に市民の声を反映するため、生成AIでアイデアを創出。5月24日には多様な参加者が集まり、仮想の市役所像を語り合った。AIで生まれた図案は人の想いに輪郭を与え、机上の構想から一歩踏み出す実感を全員が共有した。

◆つい立ち寄りたくなる役所

「畳でごろ寝読書」や「足湯の休息スペース」、「学習に役立つ検索ブース」に、「地域を回遊するイベントカレンダー」。堅いイメージを覆す4つの提案は、通りすがりでも寄りたくなる、市民の暮らしに寄り添う庁舎の未来を感じさせた。

チームみらいのまど新聞部

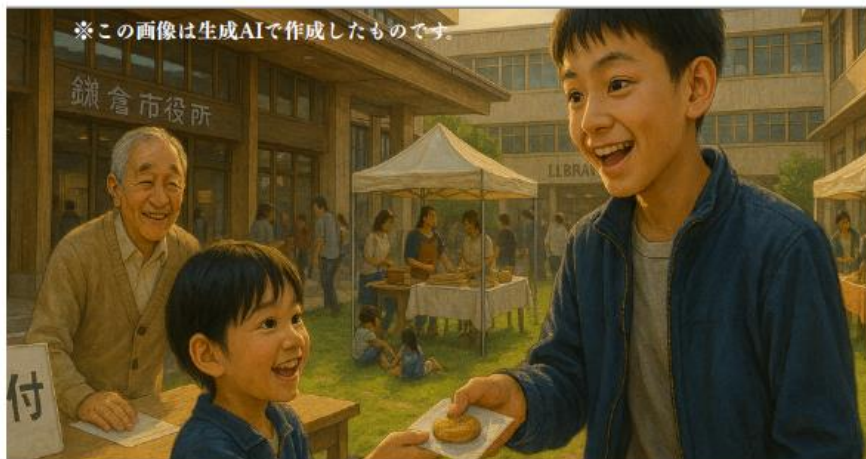
新聞

社説

(参加者の感想)

居場所を語る難しさに向き合いながら、互いの違いを尊重し、思いを重ねていく。今日の対話は、市役所を越えて「人と人が交わる場」の価値を教えてくれた。

特集：まち全体がキャンパスだった



※この画像は生成AIで作成したものです。

SNSで見た投稿に惹かれた。それは図書館と広場とホールが一体になった「まちのフェス」。市民の手で創る週末のイベントが、鎌倉市役所で開かれていた。授業で学んだばかりの市民活動を、今、自分が体験している。受付では笑顔のお年寄りが声をかけてくれ、出店では小さな子が差し出したクッキーを手渡された。年齢も立場も違うけれど、ここでは誰もが「この街の一員」だった。市役所はもう堅い建物じゃない。人が集まり、つながる場所になっていく。帰り道、ふと思った。次は自分が「誰かのきっかけ」になれるかもしれない。

市民からの声

◆周辺施設と連動した街ぐるみ催事

図書館やホール、公園と連携した季節イベントを提案。地域全体を巡る楽しみが広がる市役所に。

◆テーマで探せる学習ブース

漢字や英語など目的別に資料を探せる検索端末の設置を提案。勉強中の人の学びをサポート。

◆寝転んで本が読める読書空間

靴を脱いでごろ寝できる畳スペースの設置を提案。静かに本を楽しむ新しい市役所の風景に。

◆足湯でほっと一息つける庁舎

簡易足湯やスチームスペースの導入を提案。仕事帰りや子育て中の休息にぴったりの場を目指す。